

総合(業界・団体・経済)ニュース

4大学の建築系学生、教員ら35人が参加



日本建築協会(中井進会長)は21日、大阪市西区の土佐堀ダイビル(仮称)新築工事作業所(竹中工務店・大林組・鴻池組JV、長曾我部誠所長)で学生のための建築現場見学会を開いた。

学生向け現場見学会の開催は今回が初めて。4大学の建築系の学生、教員ら35人が参加した。企画を担当した同協会編集委員会の設楽貞樹委員長は、「建築を通じて社会に貢献する活動の一環。建築のモノづくりの原点、喜びは現場にある。若い方に現場の一端に触れてもらう機会を提供し、橋渡し役となるような活動を進めていきたい」とあいさつ。設計と工事概要の説明の後、鉄骨建て方やサッシ取り付けなどの地上躯体工事が進む現場を見て回った。

土佐堀ダイビル(仮称)は、鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート・鉄筋コンクリート造地下1階地上17階建て塔屋3階付き延べ3万7,468㎡の規模。外装仕上げは花こう岩・亜鉛メッキリン酸処理、金物打ち込みPC板。用途は事務所、設計は日建設計が担当。工期は2007年11月22日～09年7月31日。10月末現在で進捗率は22.7%。地下躯体工事が完了し、地上躯体工事で4節鉄骨建て方や外装PC板、サッシ取り付けなどが進められており、11月から内装仕上げに入った。

特に外部石材の一部に別地で建設が進む中之島ダイビルの端材を有効活用し、リサイクルファサードとしているほか、鉄骨積層工法、ガラスを先に入れ、海外調達したアルミサッシ・ガラスユニット取り付け工法などが特長と

いう。

見学会では、仮設計画から地上躯体工事のうち鉄骨部材の搬入、現場受け入れ検査、建て方や3次元計測器による精度確認、専用治具による建て起こしなどの精度を確保する一連の作業の流れの説明があった。また、継ぎ手の施工管理や鉄筋工事の施工品質確保のほか、制震材などの地震対策、環境面ではゼロエミッション活動に取り組んでいる現場であるなどと学生らに紹介した。

見学会後、学生らからの「設計・施工者としての思い」の質問に、日建設計や竹中工務店JV側からは「建築の現場は事業者、設計者、施工者が三つどもえでやり遂げるダイナミックなもの。良い品質のものを造るそれぞれの熱い思いがある。建築物は残り続け、空間体験できる価値のある仕事だ」と答え、建築現場が常に熱いドラマを生む場所であると説いた。

日本建築協会が初の学生向け見学会 現場は熱いドラマを生む場